

修士論文(要旨)

2008年7月

中学英語教育における英詩の内容と指導に関する一考察
—戦後60年間の検定済教科書(英語)を中心に—

指導 森住 衛 教授

国際学研究科

言語教育専攻

20541418

大野 健一

目次

	本体	資料番号
序論		
1. 詩の定義	3	1
2. 研究の目的	5	
3. テーマ設定の理由	5	
4. 研究方法	7	
5. 断り書き	8	
第1章：教科書に見られる英詩の分類と内容		
第1節 教科書に見られる英詩の分類	8	2 / 4
(1)固有の詩人によって作られた文学作品としての英詩(分類 A)	8	3
(2)ナースリーライムやマザー・グースに現れる英詩(分類 B)	9	5
(3)旋律をつけた楽曲の歌詞として現れる英詩(分類 C)	10	6
(4)その他の英詩(分類 D)	11	7
第2節 教科書に見られる英詩の内容		
(1)英詩の割合 (A～Dの分類に対して)	11	
(2)英詩の長さ (A～Dの分類に対して)	13	8
(3)英詩のテーマ (A～Dの分類に対して)	17	
(4)詩人の出身国 (A～Dの分類に対して)	18	8
第2章：指導書に見られる英詩の扱いに関する分類と指導法		
第1節 指導書の分類		
(1) 指導書の分類の概説	19	
(2) 指導書の分類 I	21	9
(3) 指導書の分類 II	22	10
(4) 指導書の分類 III	23	
第2節 指導方法の考察		
(1) 英詩指導の概観	23	
(2) 指導書と学習指導要領との関係	26	
(3) 指導案の作成	28	
結論		
1. 各章のまとめ	31	
(1) 英詩の内容	31	
(2) 英詩の指導法	32	
2. 本研究の応用性	34	
3. 今後の課題	35	
参考文献	36	
資料		

序論

1. 詩の定義

詩とは、自らの心の中に湧き上がる気持ちや想いを、言葉に託す言葉の芸術の一つの形であると筆者は考える。言葉は美しい。どの言語で書かれた詩にも美しさが溢れている。詩の簡潔さ、洗練された語彙、言葉の醸し出すリズム感、の3点から、詩は美しい言葉の結晶であると感じている。

1. 研究の目的

本研究は、中・高・大の中でも、英語学習の本格的な導入時期であり、もっとも感情の多感な中学校を取り上げ、その教科書に見られる英詩の特徴を分類し、これまで曖昧であった英詩の内容を考察することを目的の一つとする。また、これまで体系的な指導法の確立されていない英詩の指導法について、過去の指導書を調べて考察するものである。具体的には、以下の2点を重点的に論じていく。

- 1) 中学校検定済教科書において取り扱われてきた英詩を分類し、その内容を考察すること。
- 2) 指導書の調査を通じて、これまでの指導書に見られる英詩の扱いを分類すること。そして、指導法の変遷を明らかにし、これからの英詩指導について考察すること。

2. テーマ設定の理由

(1) 英詩

教養としての英語から、実用のための英語へ大きく傾いている日本の英語教育で、本研究では英詩を学ぶことの意味をもう一度再確認したい。具体的には、どのような英詩が公立中学校の検定済教科書の中で扱われてきたのかを調査・考察していく。

(2) 中学校

本研究では中学校の教科書、指導書のみを扱うこととする。それは、筆者が公立中学校の教員をしており、本研究が今後の指導実践に生かせると考えたためである。また、本研究で扱う英詩は、教室の中で教えられている内容に限定する。

(3) 内容と指導

英詩の内容と指導に関してであるが、まず、英詩指導のこれまでの状況を教科書に付随している指導書を使って調査していきたい。調査の対象になるのは、1945年から1997年までの検定教科書に付随している教師用指導書である。次に、教科書に見られる英詩の内容であるが、これまでどのような英詩がどれだけ掲載されているかを調べ、そのデータベースを基に考察をおこなう。

(4) 戦後60年

本研究では戦後60年間の教科書を調査することとする。本研究では、英詩の教科書への掲載状況を長期的に長期的に調べることで、これまで英詩の扱われてきた状況を包括的に検証することが可能であると信じ、戦後60年間の教科書を調査することとする。

(5) 検定教科書

本研究では場所を公立中学校に設定しているため、調査で使用する教材は文部科学省検定済教科書のみを扱うこととする。三省堂のNew Crownシリーズ、開隆堂のSunshineシリーズ、そして、中教出版のEveryday Englishシリーズの3社である。他にも教科書を作成している会社はあるが、この3社については発行されていた期間が合致する、という理由から比較する対象としては適していると考え調査で使用することを決めた。

第1章 教科書に見られる英詩の分類と内容

第1節 教科書に見られる英詩の形式

第2節 教科書に掲載される英詩の概観

本研究の第1章は、中学校の教科書に掲載されている、昭和25年から平成9年までの英詩、全188冊、637編を分類、分析したものである。分類に関しては、以下の4つの形式に分類した。

A: 固有の詩人によって作られた文学作品としての英詩

B: ナースリー・ライムやマザー・グースに現れる英詩

C: 旋律をつけた楽曲の歌詞として現れる英詩

D: その他

表1 分類別にみた英詩の内訳

中教出版			三省堂			開隆堂		
分類	数	割合	分類	数	割合	分類	数	割合
A	11	5.8%	A	21	10%	A	33	14%
B	5	2.6%	B	2	1%	B	3	1%
C	167	89%	C	172	85%	C	185	81%
D	5	2.6%	D	8	4%	D	8	4%
総数	188	100%	総数	203	100%	総数	229	100%

第1節の形式分類作業、及び、第2節の英詩の概観を検証するを通じて、教科書に掲載される英詩の特徴として、以下の4点が分かった。

①教科書に掲載される英詩のほとんどは楽曲のついた歌詞である。

中学校で扱われる教科書に掲載されている英詩の80%以上は歌の歌詞としての英詩である。

②固有の詩人によって作られた文学作品としての英詩として掲載される英詩の作者は限定的である。

古典的な英詩は総数で見ても戦後60年間でわずか55編である。その55編も同じ英詩が多く使われているために、それを書いた詩人の数も限定されてくる。掲載回数をもっとも多い詩人は、Robert Louis Stevenson と Christina Rossetti であった。

③中学校の教科書に見られる英詩は短い詩が多い。

④教科書に見られる英詩のテーマは自然に関するものが多い。

第2章

指導書に見られる英詩の扱いに関する分類と指導法

第1節 指導書の分類

本研究の調査を進めていく中で637編の英詩のうち、385編には何らかの指導書が見つかった。本研究では、便宜上これらの指導書を下記の3つの分類に分けた。

- I : 指導書に指導の手引き、及び解説あり(かなり詳しいもの例: New Crown) (添付資料 B 参照)
- II : 指導書に英詩に関する何らかの解説はあるが、簡易な解説のみ (添付資料 C 参照)
- III : 教科書に詩の掲載はあるが、指導書に指導の手引き、解説がないもの

- a: 正課教材(英詩が課の中で中心的な題材として扱われている場合)
- b: 正課関連教材(課の外部にあるが、課と密接な関係性がある場合)
- c: 付録教材 # 1 (英詩が完全に課から独立して扱われている場合)
- d: 付録教材 # 2 (cの中でも、表紙の裏面にのみ使われている場合)

指導書の分類と英詩の掲載場所

分類	数	掲載場所 a	掲載場所 b	掲載場所 c	掲載場所 d
I	47	34	0	13	0
II	395	17	1	223	158
III	8	0	0	1	7

第2節 指導方法の考察

- (1) 英詩指導の概観
- (2) 指導書と学習指導要領との関係
- (3) 指導案の作成

第2節では、具体的に上記の3点に焦点を当てて、これまでの英詩指導について論を進めていった。

指導書の特徴としては、英詩が教材として正課に扱われれば扱われるほど指導書での解説が詳細になっていくという事実が分かった。実際に指導書で詳細な解説が行われているものは7割以上が正課教材として、教科書の1つの課として成り立っているものである。分類Iに入っている47編の内訳であるが、そのうちの23編は歌詞付きの英詩、つまり歌となっている。そして、古典的な固有の詩人が書いた英詩で詳しい解説が指導書にあるものは10編であった。また、マザー・グースは1編、その他に分類される英詩は13編が詳しい解説つきとなっていた。

結論

- 1. 各章のまとめ
 - (1) 英詩の内容
 - (2) 英詩の指導法
- 2. 本研究の応用性
- 3. 今後の課題

参考文献

- 石川慎一郎 (1997) 「英語教育における英詩教材」『言語文化学会論集』 123-135.
- 池上嘉彦 (1994) 「ことばとしての詩」『現代英語教育』 6月号 8-10.
- 石井 白村 (1964) 『英詩韻律法概説』 篠崎書林.
- 近江誠 (1994) 「詩は素晴らしいコミュニケーション教材」『現代英語教育』 6月号 20-22.
- 川上武志 (1995) 「英語教育と英詩」『旭川英語英文学研究4』, 69-93 北海道教育大学.
- 川島隆太 安達忠夫 (2004) 『脳と音読』 講談社現代新書.
- 菅野弘之 (1994) 「ことばとしての詩」『現代英語教育』 6月号 26-27.
- 川島隆太 安達忠夫 (2004) 『脳と音読』 講談社現代新書.
- 小川芳男 (1982) 『英語教授法辞典 新版』 三省堂 468-475.
- 小林章夫 他 (2006) 『ものしり英語塾』 7、8月号 NHK 出版.
- 小泉仁 (2008) 「学習指導要領における英語教育観の変遷」
<http://www.cuc.ac.jp/~shien/terg/koizumi%5B1%5D.html>.
- 斎藤兆史 (2003) 『英語達人塾』 中央公論新社.
- 齋藤孝 (2001) 「暗誦・朗誦を国語教育の柱に (大特集 教育、教育、そして教育)」 文芸春秋 79(14) 187~191.
- 佐藤清 (1933) 『英詩韻律の研究』 新英米文学社.
- 清水英之 (1996) 『英詩朗読の研究』 近代文芸社.
- 田口孝夫 (1994) 「英語の授業で詩をどう扱うか」『現代英語教育』 6月号 17-19.
- 田中安行 (2006) 『声に出して覚える英語の詩50選』 中経出版.
- (1994) 「英詩を扱うねらいと選び方」『現代英語教育』 6月号 23-25.
- 手島良 (2007) 「マザー・グースで発音指導」『英語教育』 大修館書店 10月号 10-11.
- 林亜希子 (2002) 「教科書に現れた英詩の特徴と教材としての取り扱い方について」『創価大学英文学会 英語英文学研究』 27, 通号 51 99-119.
- 濱口脩 (2003) 「文学を利用した英語教育」『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部』 第52、97-105.
- 森住衛 (1992) 「英語教育題材論」 42-43 『現代英語教育』 大修館書店.
- (2008) 「中・高英語教育の来し方・行く末 - 戦後60年の教育課程と学習指導要領の総括の試み」 桜美林大学大学院国際学研究科ジャーナル 『桜美林シナジー』第6号.
- (1995) 「学習指導要領の変遷が意味すること」『英語教育』 Vol.44 No.8 16-18.
- 窪菌晴夫 溝越彰 (1991) 『英語の発音と英詩の韻律 - 英語学入門講座・第7巻』 英潮社.
- 安井貞夫 米蒸健一 (1987) 「英詩学習入門」『新英語教育講座 その理論・実践・技術 14』 三友社出版.
- Burkhardt, M. Ross. (2006) *Using Poetry in the Classroom Engaging Students in Learning*. Rowman & Littlefield Education.
- Christison, M.A. (1982) *English through Poetry*. Hayward, CA: Allemany Press.
- Janeczko, B. Paul. (1998) *Favorite Poetry Lessons*. Scholastic Professional Books.
- Maley, Alan. & Duff, Alan. (1997) *The Inward Ear: Poetry in the Language Classroom*. Cambridge University Press.